

2009 ドイツ旅行

織田 正雄

今回の北ドイツ旅行は実に多くの方々のご支援によって計画通り実行する事が出来ました。

事前の打合わせは2008年10月から始めました。

ドイツ各地の独日協会もかなりの時間と労力を費やした等です。東日観光の阿部さんのご尽力も不可欠でした。

旅行の重点には次のことを入れました。

1. ドイツ人との交流ードイツ独日協会との会合・会食。
2. ドイツの世界文化遺産を訪ねる。
3. 進んでいるドイツのゴミ処理状況を見る。
4. 通常旅行会社がアレンジするコースで無い所に行く。
5. 白いアスパラガスを賞味する。
6. バスばかりでなく、汽車にも乗りたい。

10日間はかなり強行軍でしたが、幸い好天に恵まれ、そして怪我人も病人も出なかったことは幸いでした。次回もまた普通行かない所などをたずねてはどうでしょうか。9カ国と国境を接しているドイツの国境はどうなっているか、みてまわるのは如何がでしょうか。

ドイツ旅行を終えて

堆 眞佐子

北ドイツ旅行に参加させて頂き、感謝いたします。独日協会の方々との交流会、行く先々のガイドの方の懇切でいい説明に、普通の観光旅行では味わえない経験をさせて頂きました。

帰りのミュンヘンから成田への飛行機で隣の方が湘南日独協会の会員で、ドイツ滞在経験ありで、私たちの旅程をご覧になり、「私も知らないような都市を行かれたようで、珍しいですね。特にドイツが初めてなあなたのような方が。次は是非、ミュンヘンにいらっしゃるといいですよ」とびっくりされていました。彼は、お仕事をリタイアされ、奥様と個人旅行されて、奥様の帰国後ドイツ語学短期学校をおえての帰りとのことでした。

今回の宿泊先々のホテルの朝食の果物の種類の多さには感激しました。リュウベックの市場で買ったイチゴ、ラズベリーもおいしかったです。

フランクフルトのホテルは、部屋の窓からの夜景が幻想的でした。日本と違い、川岸にコンクリート護岸がされていなくて、家々の灯りと橋のライトが川面に映り、ゆらゆらゆれてとても綺麗でした。

ホテルへの帰り道に迷って、道で出会ったドイツの方々に道を聞いて、親切に対応してくれました。

一緒に旅行をして下さった日独協会の方々が、飲み物の注文から、交流会での通訳まで本当によく長い旅行の間をしてくださり、不自由を感じずに過ごせました。

織田会長はじめ、日独会員の皆さまの健康とご活躍をお祈りします。

本当にお世話になりました。ありがとうございます。

5月に実施されたドイツ旅行の参加者による紀行感想文集の中から3編をこの会報に収録しました。今回は全会員への配布は致しませんが、ご希望の方には差し上げますので、どうぞ事務局へお申し出ください。

湘南日独協会 2009-10 年度活動予定

■ 2009 望年会 当協会創立11周年の行事もあとは望年会を残すのみとなりました。

当協会の望年会を下記により今年も賑やかにしたいと存じますので、どうぞご参加ください。お申込はお早めに！

日時 12月14日(月) 午後6時00分～8時頃

会場 鎌倉山下飯店(鎌倉駅より徒歩3分)

会費 6,000円(中華コース・飲み物付き)

お申込は返信葉書11月30日(月)必着でお願いします。

■ 第67 会例会

日時 2010年1月24日(日) 午後1時30分より

会場 湘南アカデミア7階教室

★★ 湘南日独協会のホームページは ★★

URL : <http://jdg-shonan.ciao.jp/index.html>

「全国日独協会一覧」からもアクセスできます。

私のドイツの人々への親しみ

会員 阿部 仁

10月31日、今日のドイツ・リードのコンサートは、大盛況で会場は音楽ファンの方方で満席です。まさか、この湘南の地元で、シューベルトの歌曲「冬の旅」の全曲を生演奏で聞けるとは思いもしませんでした。バリトン歌手のトーマス・バウアー氏の深く響き渡る声、そして熟練した世界的ピアニストのイエルク・デームス氏が醸し出す透明で柔らかな旋律の音色が、ドイツの緑あふれる木々や古城の見える兩岸の中を滔々と流れる川の情景を思わず目前に見る思いがしました。私がドイツに縁が出来て、初めてドイツという国を訪ねた時は、単にヨーロッパ文化の歴史のある憧れの国の一つにしか見えなかったのですが、日本の国の世の流れの価値観とともに、よくよくドイツから発信される情報に注目するようになってゆくうちに、何故か日本がこれから取り組みを絶対していかなければならない事をドイツでは、すでに国家的に立ち上げ、実践しているので本当にびっくりし、その結果、ますます深くドイツという国に興味を抱いて入ってゆく“きっかけ”になった記憶があります。

私の狭い価値観の中でドイツが本当に素晴らしいと思った点は、無残に営利のために壊されていく自然を放っておく日本の政治に腹立ちを覚えた時点で、ドイツの人々は、すでに人間と自然との共存と調和を十分考慮し、国も人も自然環境の未来へ“つなげる”重要さを理解して、人間を大切にすると同時に自然も一度壊したら二度と戻らない当たり前の事を知り尽くしているように思った点でした。また、職人の技術にしても一旦なくなってしまったら全てを失ってしまうものを、一つ一つが継続されるために伝統と人間と技術を本当に大切に保護をしています。そんな風土と考え方などがドイツとドイツの人々に対して私は自然に憧れるようになりました。そしてさらに今年は、もう一つドイツの人々の心の思いを感じることができました。

今年の5月に湘南日独協会の皆様方と旧東ドイツの街々を訪問していくうちに、どの街を訪ねても戦時中に壊された数々の建物があり、またそれを修復して、戦前の姿に復元しようと町中が膨大な時間と費用とを掛けて復元工事をしていました。そのうち、街の人々が大切にしていたものが失われ、どんなに気持ちになってしまったのかと壊された建物の中で次々と思うようになり、本当に段々悲しくなっていく自分に気がつきました。そしてどんなにドイツの人々が悲しい思いをしたことかと日本人に照らし合わせてしまいました。日本が大戦の戦火でやはり自分達の親しみ馴染んだ町が焼かれ、潰され、どれだけ辛い思いを心の中で日本人が感じて、また傷ついたかと思ったときに、このドイツの人々も自分の街を空襲され、破壊され続けて、どんなに心を傷つけられたかと思った時に、日本

人もドイツ人も区別はない、人間としての痛みや悲しみは皆同じなのだと今さらのように恥ずかしいのがつくづく思いました。特に家族や友人を失う気持ち、馴れ親しんだ建物がなくなる気持ち、さらに調和のとれた自然が壊れる気持ち、日本人、ドイツ人に限らず人は皆同じ気持ちになれるのだと。そして、変な私ですが、日本人と同じ悲しみを知っているドイツの人々にとても愛着を感じたこの1年間でした。そして、今年の12月には、この愛すべきドイツの人々と日本の群馬県昭和村の素朴な合唱団の人々とハノーファー市とオズナブルック市の真ん中にある小さな町のメレ市の教会で“ハレルヤ”を歌い今年のクリスマスをドイツの皆様と一緒に祝います。引き続き良き交流が出来ればと思っています。

アムゼルの歌声

西川 統（合唱団アムゼル代表）

An die Musik「楽に寄す」のメロディーはどなたもよく耳にされていることでしょう。日独協会の合唱団員たるもの、その歌詞のとおり「甘く清らかなハーモニー」で聴く人を「天国に誘おう」と2003年結団以来、猛練習をしてきました。その5年の成果はこの7月第27回ふじさわ合唱祭に初参加し歌った「陽気な鱈」に「さすがに日独協会付属だけのことはあって、よくこなれたドイツ語での歌はすばらしい」という専門家の批評をいただいたことに表れています。結団当初、湘南ビール祭りやワイマール市民歓迎会での演奏直後に「今のはドイツ語だったの？」と口の悪い協会員から皮肉られたことが今や嘘のようです。

長期滞在の経験者の少ないアムゼル団員のだれそれに、ヨーロッパの自然の中のアムゼルの歌声を聞いてもらおうと探し回ったところ、フランス製の「鳥の笛」シリーズの中の「アムゼル」を見つけました。これが不思議なことに「吸って音を出す」構造になっていたのです。不良品ではないという輸入元の説明にもかかわらず、とても音を出すのに苦しいので返品してしまいました。協会員の中で本物の鳴き声をお聴きになった方は、合唱団がそんなに美しい声なのかとお疑いでしょう。手前味噌になるといけないのでここでは「その目標に向かって努力しています」と謙遜しておきましょう。5年間にドイツのオリジナルの歌だけでなく、日本の歌もドイツ語歌詞で歌いこんできました。今はレパートリーが60曲を超えています。団の新しい方針に「対外活動の充実」を謳ったところ、早速に片瀬公民館しおさいセンターでの「ふれあいコンサート」や湘南鎌倉総合病院での合唱披露など申し込みが相次ぎ、一同張り切っています。

「楽しく歌おう」が団のモットーです。みなさんも一緒にいかがですか？美しい声になるのはとても楽しいですよ。